

## ノブドウ

## 毒性の有無

1989年11月に本協会の梅田 始氏（中蒲原郡村松町）からのお便りで、ノブドウに毒があるか、どうかの質問がよせられたので、手元にある図鑑などを調べてみました。私達の身近に見られる植物なので、調べた結果を紹介します。

## 図鑑などの記録

牧野富太郎（昭和32年） 日本植物図鑑

「敢テ食ニ中ラズ」とあり。

倉田 悟（昭和44年）植物と民俗

「有毒である」 その他ノブドウに関して詳しい紹介あり。

牧野富太郎（昭和49年） 新日本植物図鑑

「食べられない」とあり。

上原敬二（昭和50年） 樹木大図説

「食用とならず」とあり。

杉本順一（昭和53年） 新日本樹木総検索誌

用途の欄に「毒」とあるが、植物体のどの部分か不明。

伊沢一男（昭和53年）薬用カラー図鑑 主婦の友社  
根に薬効あると記しているが、液果についてふれてない。

私の田舎（長野県）でもノブドウのことをドクブドウと呼び、食べないように注意されたことを覚えていません。新潟県における記録を調べてみたが、手元の資料に

はみつかりませんでした。お手紙を頂いた直後、山へ行った際、すこし液果をなめてみましたが味もなく、美味しさを感じませんでした。大量に食べていないので、毒性ははっきりしません。梅田氏には果実（液果）にどの程度の毒があるかどうかははっきりしないようなので、食用にしないほうが無難でしょう、と返事しておきました。その後、佐渡の植物に詳しい伊藤邦男氏にお伺いしたところ「両津市真更川では、ノブドウを食べたという年寄

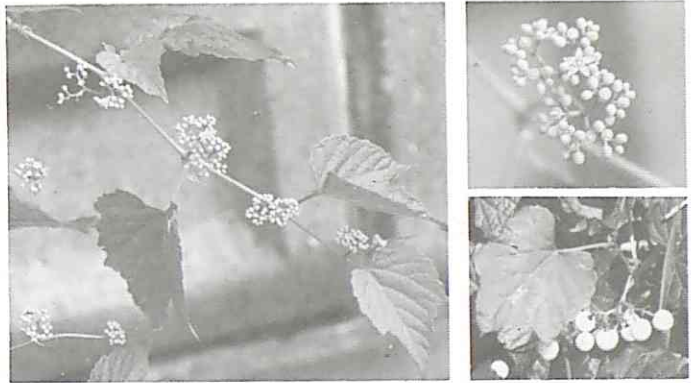


写真 糸魚川市坪野（1981, 8, 5 果実 宝珠山 1983, 9, 15）

りも若い人もいます。また、『佐渡志』（1886年 佐渡奉行所編）には、“食用可”の果実として記録されています。私も食べてみました。毒ではありません」とのことです。尚、詳細なことは、伊藤邦男氏が「佐渡新報」（1989年9月9日 第9428号）佐渡草木ノート351に「蛇葡萄・ノブドウ」の題で書かれています。

伊藤邦男氏のお話しからノブドウは有毒でないことになりませんが、美味しくないので、その液果について聞かれたならば、牧野氏の日本植物図鑑にあるように「敢テ食ニ中ラズ」と伝えるのが妥当と思われます。

（石沢 進）

## [新潟県自然保護団体の会報]

植物同好じねんじょ会（事務局〒947 新潟県小千谷市山寺 関省吾方）

むかご 7巻 4号（1990年 1月15日発行）

新潟の水辺を考える会（事務局 〒950-21 新潟市五十嵐 1の町 7821-5 株式会社 グリーンシグマ気付）

水を肴に大いに語ろう PART2 水辺の生態工学 シンポジウム1989 資料 1 1月18日開催

（希望者は同会に紹介下さい）

新潟県生態研究会（事務局 〒943 新潟県上越市東城町1丁目16の4 丸山吉夫方）

新潟県生態研究会誌 第4号 1989

## [お知らせ]

「新潟県植物保護」 No.8 原稿募集 7月に発刊の予定ですので、投稿をお願い致します。

「新潟県植物保護協会」1990年会費の納入をお願いします（一口 ¥ 1,000円）。

「出版物（在庫）」

上信越ブナ原生林シンポジウム－ブナ原生林の保護をめざして－

上信越ブナ原生林シンポジウム開催準備会編（一部 ¥1,000円）

雪国新潟の自然－原生林の夕べ－開催資料（一部 ¥500円）

希望者は本協会事務所まで申込んで下さい。 Tel. 025 (267) 0705 (石沢)